

Press Release

報道関係者各位

2005年1月24日



固定・無線連携サービスが活発化する韓国ブロードバンド市場 2005年、韓国メジャーポータルが本格化

情報通信分野のコンサルティング会社である情報流通ビジネス研究所(本社:神奈川県大和市、代表取締役所長:飯塚周一、TEL 046-271-2323)は、このたび「**韓国ブロードバンド・ポータル企業における収益モデルと先端サービスの動向分析 ～有無線連携を中心とした成功事例と日本市場へのインパクト～**」と題する、調査研究レポートを発行いたしました。

これは、弊社海外パートナーの韓国 ATLAS Research Group(本社:ソウル、代表:朴 終鳳)が調査分析し、弊社と共同で日本向けに発表したレポートです。ATLAS Research Group 社は、韓国における情報通信・IT 専門の民間調査機関として、最大規模を誇る企業です。

今回発行したレポートによれば、固定と無線のブロードバンド化が急加速する韓国市場で成功したコンテンツを掲げ、韓国ポータル企業による日本参入が 2005 年より本格化し、固定系 ISP だけでなく携帯キャリアやモバイル系ポータルにいたるまで、日本のポータル市場に大きな影響を及ぼす——と予測しています。

ブロードバンド接続サービスや広告収入一辺倒からの脱却を目指し、日本のメジャーな ISP が新たな収益確保に向けて模索するなか、固定・無線ブロードバンド環境下における収益性や、有効性が検証された韓国市場でのビジネスモデルを武器に、韓国ポータル企業は大規模 M&A まで視野に入れた積極的な進出を試みている、と報告しています。

とりわけ 3.5G (1X EV-DO) の普及で日本に先行し、固定と無線のシームレスなサービスの連携が進んでいる韓国ポータル企業が、日本市場に向けた最初の切り札として有望視しているのは、ゲームやコミュニティといったサービスです。これから 3.5G が本格的に立ち上がろうとしている日本にとって、この点は見逃せないポイントです。

本レポートでは、韓国ポータル企業の日本市場参入に伴う波及効果を予測するため、韓国ポータル市場の競争構図と収益モデルを始め、同国メジャーポータル各社の戦略、そして特に成功を収めたコミュニティ/ゲーム/検索/インスタントメッセージの 4 大サービスを中心に、それぞれの特徴やビジネスモデル、固定・無線連携について詳細に分析しています。レポートの概要を以下に記しましたので、ご覧下さい。

1. データサービスで B2C/B2B の収益源を多角化

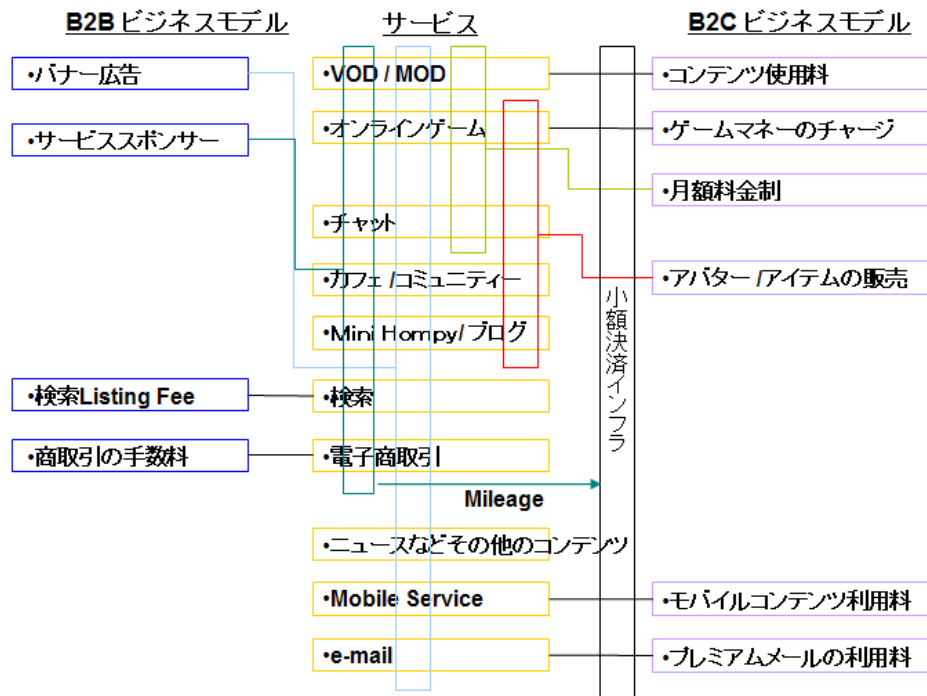
韓国ポータル市場が本格的に浮上したのは回線アクセスサービスではなく、ブロードバンドインフラを活用したデータサービスを専門的に提供するベンチャー系ポータル企業が登場してからです。彼らは当初、Web 検索やディレクトリサービスなどの一般的サービスを提供することによって、アクセス数増加に重点を置いていました。

しかしその後、ページ・ビュー (PV) とアクセス数 (UV) を同時に最大化するサービスにシフトすることにより、2000 年から収益構造が改善され始め、検索広告やアバターなど新たな収益モデル導入に成功しました。韓国市場で首位に立つ「Daum」は、ショッピングモールや保険仲介など、商取引に関連する収益モデルを持続的に進化させています。

2003 年以降、ブログ、Mini Hompy などの急成長により、ホームページをデコレーションするためのアイテム販売を通じたコミュニティ・サービスの有料化が定着し、2004 年には「MMORPG」(多人数オンラインロールプレイングゲーム)の部分的な有料化の許可と、オンライン・ミュージックサービスの有料化が推進され、インターネットサービスの有料化に向けた環境が整備されている段階にあります。

コミュニティとエンターテインメント・サービスを巡る進化が、個人顧客を対象にした検索サービス市場にまで拡大したことによって、全般的な PV 増加に貢献し、最終的には検索及び広告の売上増大という直接収益にまでつながっています。つまり、個人顧客を対象にしたさまざまなサービスは、「アバター」や「アイテム」販売という小額決済を基盤とした収益だけでなく、企業顧客を狙った検索・広告収益をも創出する、間接収益源としての役割を果たしていると分析できます。

図 韓国ポータル会社の収益モデル



2.日本参入のインパクト——コミュニティ領域の先取りとFMCが鍵

韓国国内でポータルビジネスの収益性が立証され、さまざまな企業が新規参入するなど、競争構図が次第に複雑かつ熾烈になっています。特に、ネットワークインフラを保有している通信事業者の本格参入によって、有無線統合ポータルが核心的な競争力として浮上してからは、専門ポータルを中心に海外市場開拓の動きが現実味を浴びています。

そのなかでも、ブロードバンドの普及度や文化的傾向の面で韓国と最も類似している日本市場が一次的なターゲット市場として浮上しており、先発事業者を中心に子会社設立や提携戦略を通じた進出戦略が現実のものとなっています。すでにNHN、Daum、NeoWiz、NetMarbleなどの専門ポータルが日本市場に進出しており、主にゲームポータルや検索、コミュニティ分野など、韓国市場で収益性が立証された分野を集中的に攻略しています。

ゲームとコミュニティサービスを中心に、本格的な競争が始まっている日本のポータル市場において、韓国で成功を収めた多くのビジネスモデルと運営ノウハウ、コンテンツ資産を保有する韓国の専門ポータル会社の進出は、確かに新しい脅威となるでしょう。しかし別の側面では、事業者間競争に伴うデータ・サービスの登場により、最終的には、市場規模そのものを育成する機会要因 (Opportunity Factor) としても作用することが期待できます。

この点について、ATLAS Research Group は、「韓国ポータル企業の参入が、日本におけるポータル市場成長の触媒として作用できる」と指摘しています。

さらに、韓国ポータルの攻略への対応については、

「何よりも韓国ポータル企業の場合、きめ細かなコミュニティサービスの成功に後押しされ、これを広告やコンテンツ、ショッピングなどの収益基盤として活用するレバレッジ効果を実現しているため、“コミュニティ領域”の先取りが重要なカギになる。コミュニティのヘゲモニー掌握を巡る競争において、韓国ポータル企業が主導権を握る場合、広告収益に依存している日本の現地大手ポータル企業との本格的な競争が繰り広げられるだろう」と、コミュニティサービスが競争の変数になると予測しています。

本レポートで、日本市場と比べて競争優位サービスとして選定した、コミュニティ／ゲーム／検索／IM サービスは、すべてPCと携帯電話に基づいた有・無線連携機能が備わっているだけに、日本のISPのビジネスモデルの革新はもとより、携帯コンテンツ市場進出に向けた効果的な進出戦略とビジネスモデルの提言においても、有意義なものになると見込まれます。

これらの詳細については、今回発行のレポート「韓国ブロードバンド・ポータル企業における収益モデルと先端サービスの動向分析」に掲載されています。主な内容につきましては、次ページをご覧ください。

※本ニュースリリースは、報道関係者の方々に向けてご提供しているものです。リリース記載内容に関し、報道ご関係者以外の方による個々のお問合せには、回答いたしかねますので、予めご了承願います。

なお、本レポートの内容にご関心のある方は、<http://www.isbi.co.jp/report/korea-report/index.htm> をご覧ください。

1.「韓国ブロードバンド・ポータル企業における収益モデルと先端サービスの動向分析」レポートについて

- ・発行日 2005年1月発行(初版第1刷)
- ・企画調査 ATLAS Research Group(韓国)
- ・編集発行 有限会社 情報流通ビジネス研究所(日本語版販売)
- ・体裁 126頁・A4判・表紙カラーPP加工・本文カラー・並製
- ・定価 148,000円(税込価格155,400円) ※書店ではご購入できません

2.主な内容構成

第1章 韓国におけるポータル市場の概要

- I.主要ポータル間の競争構図——10
 - 1.回線とデータサービスの分離による競争構図——10
 - 2.キャリア、大企業の参入による競争構図の再編——10
- II.収益モデル分析——12
 - 1.主な収益源の分析——12
 - 2.ハイブリッド型モデルによる好循環の創出——14
 - 3.決済インフラの発達が収益モデルの定着に貢献——16
- III.新規市場への参入戦略と可能性——17
 - 1.海外市場への進出ラッシュ——17
 - 2.日本市場への進出戦略とそのインパクト——17

第2章 韓国における主要ポータルの分析

- I. Daum——22
 - 1.サービスの現状——22
 - 2.利用者及び売り上げ実績——22
 - 3.事業戦略——22
- II. NHN——25
 - 1.サービスの現状——25
 - 2.利用者及び売り上げ実績——26
 - 3.事業戦略——26
- III. SK Communications——28
 - 1.サービスの現状——28
 - 2.利用者及び売り上げ実績——30
 - 3.事業戦略——30
- IV. Neowiz——31
 - 1.サービスの現状——31
 - 2.利用者及び売り上げ実績——31
 - 3.事業戦略——33

第3章 主要ヒットサービス分析——コミュニティ

- I.競争現状及びサービストレンド——36
 - 2.トレンド変化を牽引するデジタルカメラ——38
 - 3.直接および間接的な収益モデルの分析——38
 - 4.ニッチマーケットを狙った新規サービス——40
 - 5.有線連携で新規価値を提供——41
- II.各ポータルの主要ヒットサービス分析:Daum——44
 - 1.カフェ——44
 - 1)サービスの定義及び主要メニュー——44
 - 2)カフェ開設プロセス——47
 - 3)収益モデル——47
 - 4)ポータル全体における位置づけ(貢献度)——47
 - 2.モバイル Daum カフェ——49
- III.各ポータルの主要ヒットサービス分析:NHN——50
 - 1.Naver-Blog——50
 - 1)サービスの定義及び主要メニュー——50
 - 2)開設及び利用プロセス——50

	3)収益モデル	51
	4)ポータル全体における位置づけ(貢献度)	53
	2.モバイル Naver Blog	54
IV.各ポータルの主要ヒットサービス分析:SK Communications		56
1.Cyworld-Mini-Hompy		56
1)サービスの定義及び主要メニュー		56
2)利用プロセス		56
3)収益モデル		57
4)ポータル全体における位置づけ(貢献度)		58
2.MobileCyworld		59
第4章 主要ヒットサービス分析	検索	
I.競争現状及びサービストレンド		66
1.日韓検索サービストレンド推移		66
2.事業者別競争力分析		68
3.日韓モバイル検索サービストレンド		71
II.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:NHN		72
1.知識検索サービス「知識 iN」		72
1)サービスの定義及び動向		72
2)利用プロセス及び収益モデル		73
2.モバイル知識 iN		74
1)サービスの定義及び主要メニュー		74
2)利用プロセス及び収益モデル		75
3.地域情報検索		76
1)地域検索サービスの定義及び動向		76
2)利用プロセス及び収益モデル		77
4.モバイル地域検索		78
1)モバイル地域検索サービスの定義及び動向		78
2)利用プロセス及び収益モデル		80
第5章 主要ヒットサービス分析	インスタントメッセージ	
I.日韓市場動向及びサービストレンド		82
1.全体市場動向		82
2.競争現状及びターゲット市場		83
3.主要サービスのトレンド推移		86
4.収益モデル分析		86
5.有無線連携トレンド		89
II.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:MSN		91
1.MSN Messenger		91
1)サービスの現状及び競争力分析		91
2)主要サービス及び利用プロセス		92
2.MSN Mobile		94
III.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:SK Communications		95
1.NateOn		95
1)サービスの現状及び競争力分析		95
2)主要サービス及び利用プロセス		95
2.MobileNateOn		96
IV.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:BuddyBuddy		98
1.BuddyBuddy		98
1)サービスの現状及び競争力分析		98
2)主要サービス及び利用プロセス		99
第6章 主要ヒットサービス分析	ゲーム	
I.競争現状及びサービストレンド		102
1.日韓ゲーム市場の現状及び成長動向		102
2.ポータルビジネスにおける位置づけ		104
3.競争現状の分析		106
4.類型別収益モデルの分析		108
5.有無線連携トレンド		109
II.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:NHN		112
1.ハンゲーム		114

	1)サービスの内容及び競争力分析——114
	2)売り上げ分析——115
	3)今後の推進戦略——116
Ⅲ.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:Neowiz——117	
1.Pmang——117	
1)サービスの内容及び競争力分析——117	
2)売り上げ分析——119	
3)今後の推進戦略——121	
Ⅳ.ポータル企業別主要ヒットサービス分析:Daum——121	
1.Daumgame——121	
1)サービスの内容及び競争力分析——121	
2)売り上げ分析——122	
3)今後の推進戦略——123	

Appendix

1.主要ポータルサイトおよび参考 Web サイト URL 一覧——126
2.参考文献一覧 ——126

※詳細内容は、情報流通ビジネス研究所のサイト（ <http://www.isbi.co.jp/report/korea-report/index.htm> ）をご覧ください。

3.レポート表紙



4.会社概要——ATLAS Research Group（本レポート企画調査）

- ・社 名：ATLAS Research Group
- ・設 立：2000年5月
- ・代 表 者：朴 終鳳
- ・事業内容：韓国及び海外の情報通信分野に関するコンサルティング/調査研究/オンライン情報提供/
定期および不定期レポートの発行
- ・所 在 地：#202 ASEM Tower 159-1 Samsung-Dong Gangnam-Gu Seoul Korea

- U R L : <http://www.arg.co.kr>
- T E L : +82-2-6000-2400
- F A X : +82-2-6000-0999
- Eメール : ymp@arg.co.kr

4.会社概要——情報流通ビジネス研究所（本レポート編集発行・本件についてのお問い合わせ先）

- 社 名 : 有限会社 情報流通ビジネス研究所 (Info-Sharing Business Institute, Ltd.)
- 設 立 : 2000年4月
- 代 表 者 : 飯塚周一 (代表取締役所長)
- 事業内容 : 1. 情報通信分野に関するコンサルティング／調査研究／専門誌・書籍発行／セミナー等の開催／中小企業のIT導入に関するコンサルティング／導入支援／運用支援等
- 所 在 地 : 神奈川県大和市南林間 2-18-23 長尾会計 1F 〒242-0006
- U R L : <http://www.isbi.co.jp/>
- T E L : 046-271-2323 (代)
- F A X : 046-271-2324
- Eメール : korea@isbi.co.jp (本件に対する報道ご関係者のお問い合わせ先)

※本リリース掲載グラフ・表紙画像データの高解像度版、または記事掲載上で他の図版等が必要な場合は、情報流通ビジネス研究所までお申し付け下さい(報道関係媒体へのご掲載時に限ります)。ご要望のデータフォーマットで送付いたします。

以上